

SMOOTHER
HIGH-SPEED AUTOMATIC ROLL-UP DOOR

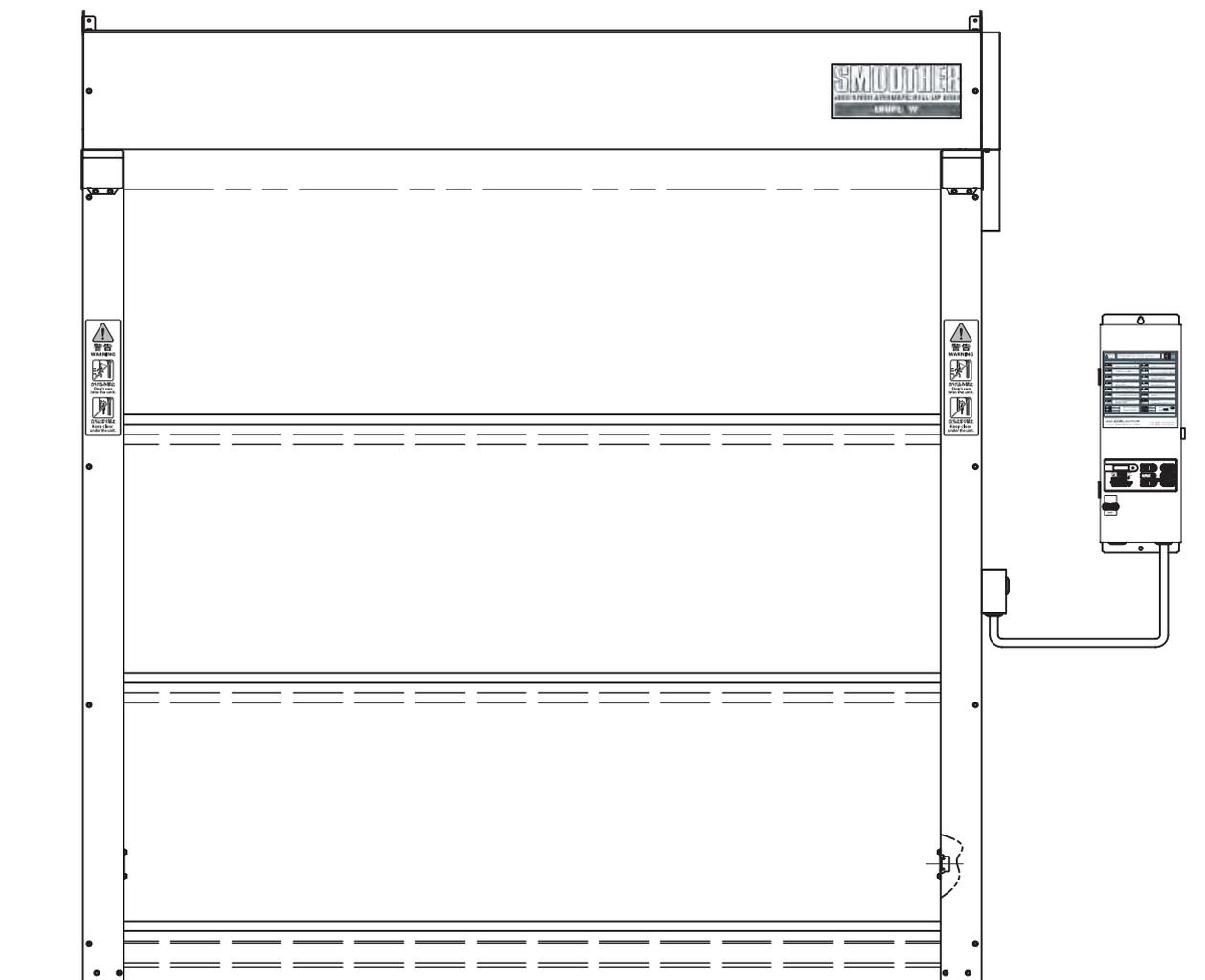
高速シートシャッター
スムーザー

RB-1Ta

取扱説明書

vol.7

202308～ Vol.6: メイン基板のマイナーチェンジ
202312～(Vol.6): 基板図, DSW設定等の誤記修正
202405～ Vol.7: 保護表示一覧の変更



この取扱説明書をよくお読みのうえ、シートシャッター「スムーザー」を正しくお使いください。
この取扱説明書はいつでも使用できるよう大切に保管し、わからないときは再度お読みください。
この取扱説明書にはお客様が動作に疑問を感じた時にご確認いただくための項目として、
“3. 異常時の処置”を掲載しております。

※施工された方へ…

この「取扱説明書」及び「付属品取扱説明書」を実際に使用される方へ必ずお渡しください。

UNIFLOW

目次

はじめに・安全にお使いいただくために	1
目次	2
ご使用上の注意	3
1 製品の仕様・性能	
1-1 外観と各部の名称	4
1-2 仕様・性能一覧	5
1-3 制御部の説明	6
2 取扱について	
2-1 ご使用方法	7, 8
2-2 長期休暇等で電源を切る場合	8
2-3 初期設定方法	9
2-4 中間高さ設定方法	10
3 異常時の処置	
3-1 確認事項と対処	11, 12
3-2 保護表示一覧	13
3-3 光電管センサのキャンセルについて	14
3-4 起動センサの注意	14
3-5 パイプがレールから外れた場合の処置	15
3-6 停電や故障時の開口確保方法	15
4 メンテナンス	
4-1 お手入れ(掃除)方法	16
4-2 日常の点検	16
4-3 定期点検	16
5 製品保証について	巻末
6 故障時の修理連絡先	巻末

ご使用上の注意



警告

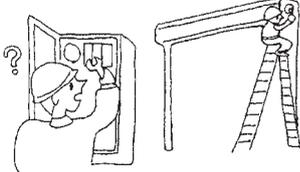
次のような注意を守らないと、
人身事故または重大事故の可能性が
ありますので絶対におやめください。



注意

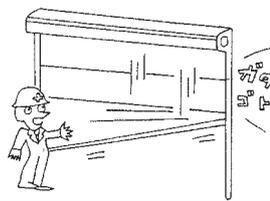
シートが濡れた状態で使用保管されますと、シートが白濁して
見えることがありますが、品質上の問題はありません。
ほとんどの白濁は水分が飛ば消えます。残った白濁は拭く
ことにより除去できます。

シートシャッターの分解・改造・修理等は絶対にして
ないでください。



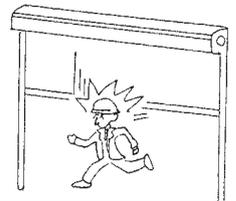
感電及び、生命に関わる事故の原因となります。

今までと異なった動きや音に気づいた場合は、ただち
に電源を切り巻末の修理連絡先に御連絡願います。



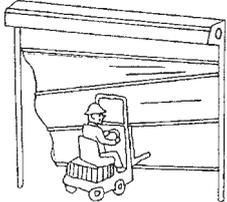
生命に関わる事故
の原因となります。

シート動作中の出入りはしないでください。
必ず全開してから通過してください。



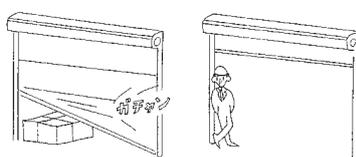
シートに挟まれたり、
頭などをぶつけケガ
をする原因となります。

シートシャッターの手前では必ず一旦停止して
ください。



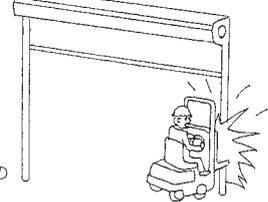
シートに衝突しレール
よりシートが外れたり、
レールの破損の原因
となります。

シートシャッターの真下に立ち止まったり、物を置か
ないでください。



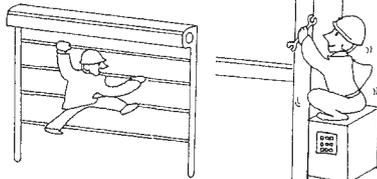
下降してきた下段パイプに頭などをぶつけケガをし
たり、レールよりシートが外れる原因となります。

シートシャッターに物をぶつけたり、立てかけたりし
ないでください。



思わぬ事故や故障の
原因となります。

製品の一部に足をかけたり、上がったりしないで
ください。



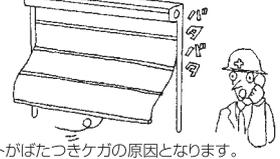
落下等生命に関わる事故の原因となります。

シートに手をかけたりぶらさがらないでください。



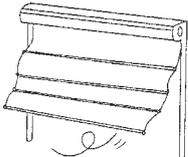
ローターパイプ落下等、
生命に関わる事故につ
ながる原因となります。

強風やシートへの衝突でレールよりシートが外れた場
合は電源を切り、シートシャッターの回りに近寄ら
ないでください。



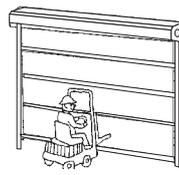
外れたシートがばたつきケガの原因とな
ります。巻末の修理連絡先に御連絡願
います。

強風時は、併設のスチールシャッター等を降ろし、
シートは全開にしてください。



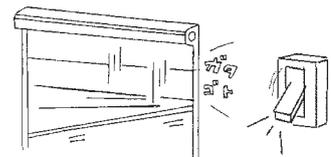
強風によりシートがレールから外れる可能性があり
ます。※機種毎の耐風圧性能は、P5をご覧ください。

全閉時には、シートに近づきすぎないようにしてく
ださい。



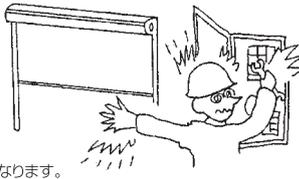
台車やフォークリフトがシートに触れたまま動作
すると、思わぬ事故の可能性があり
ます。

何らかの異常が生じた場合は、速やかに通電を遮
断してください。



不具合が生じたまま使用すると、発煙、発火の
恐れがあります。

制御盤内部には高電圧部分がありますので基板等
触らないでください。



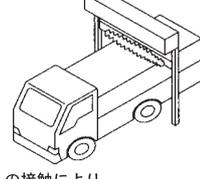
感電の原因となります。

制御盤や開閉器各センサー等電子部品に水をかけ
ないでください。



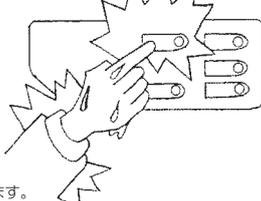
感電したり、誤動作の原因となります。

シートシャッターを跨いで車を停止させないで
ください。



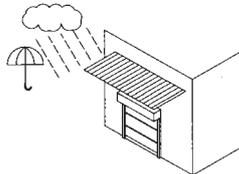
シート上部への接触により、
シート巻き込み等の原因になります。

濡れた手で操作パネル及び押しボタンスイッチを
操作しないでください。



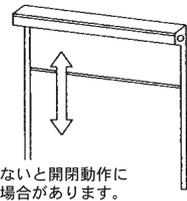
感電の原因となります。

シートシャッターは必ず、雨が直接当たらない
ように屋根下に取付けてください。



板金部の劣化や配線ショートの原因とな
ります。

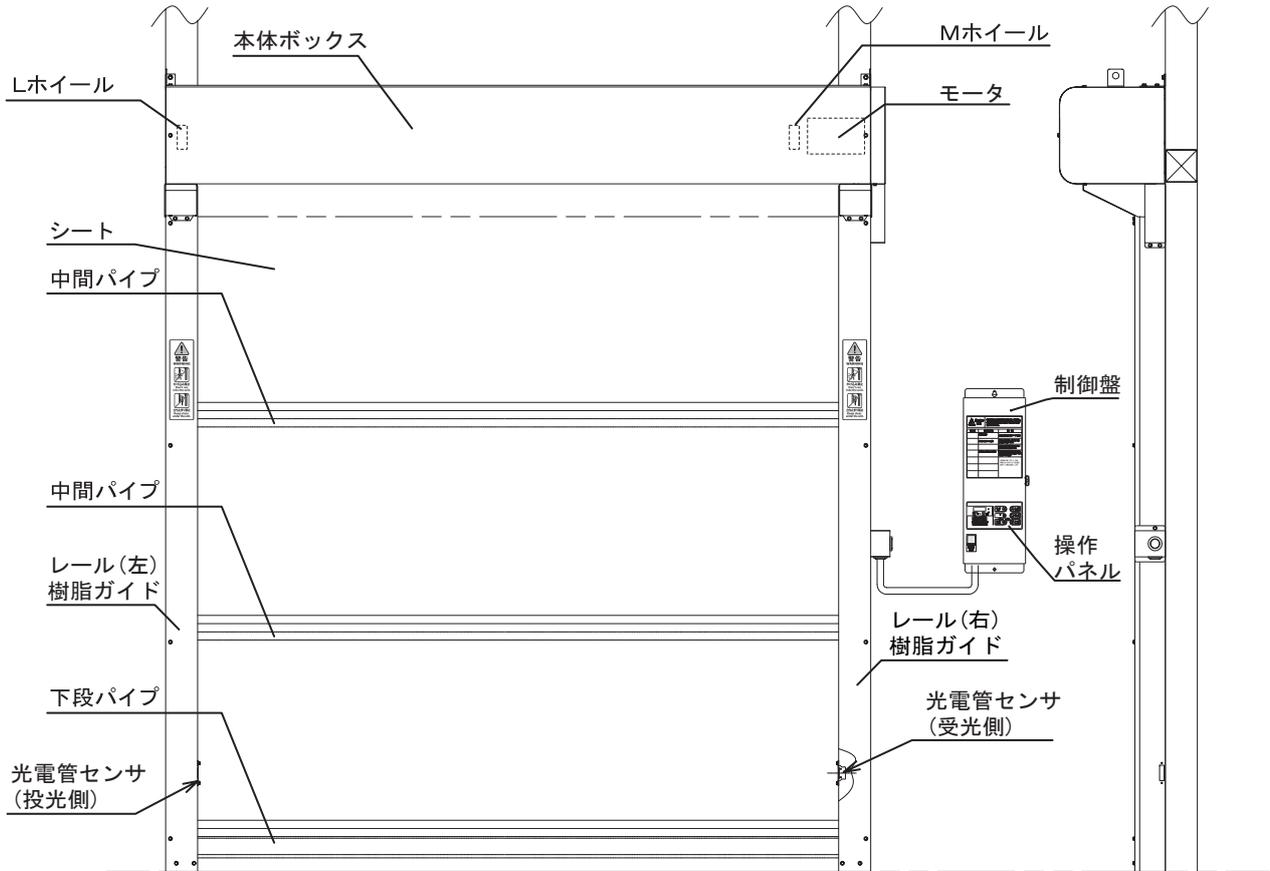
安全にご使用し続けていただくために、1ヶ月
に1回は開閉動作をさせてください。



長期間使用しないと開閉動作に
支障をきたす場合があります。

1 製品の仕様・性能

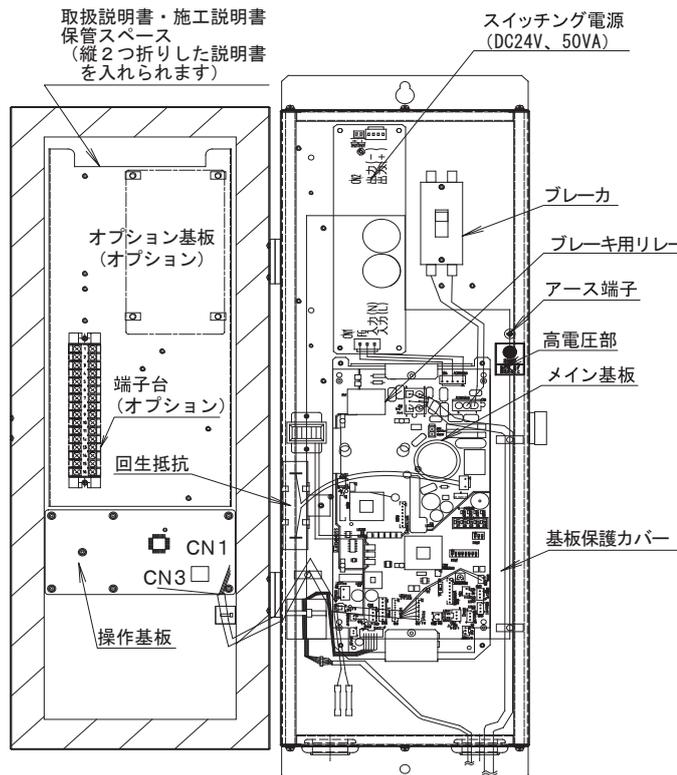
1-1 外観と各部の名称



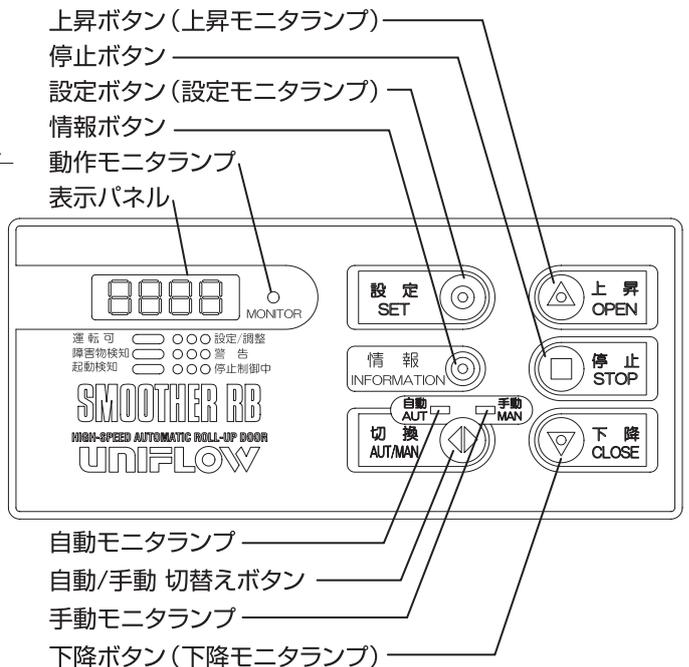
制御盤内部の高電圧部には絶対に触らないでください。

○感電、故障の原因となります。

< 制御盤内部 >



< 操作パネル >



1-2 仕様・性能一覧

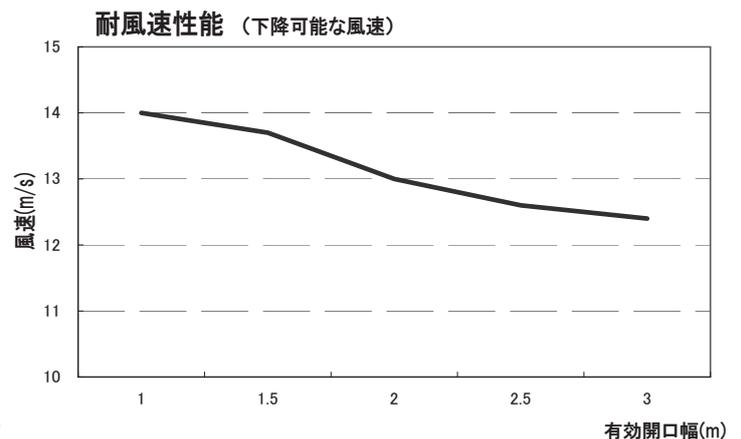
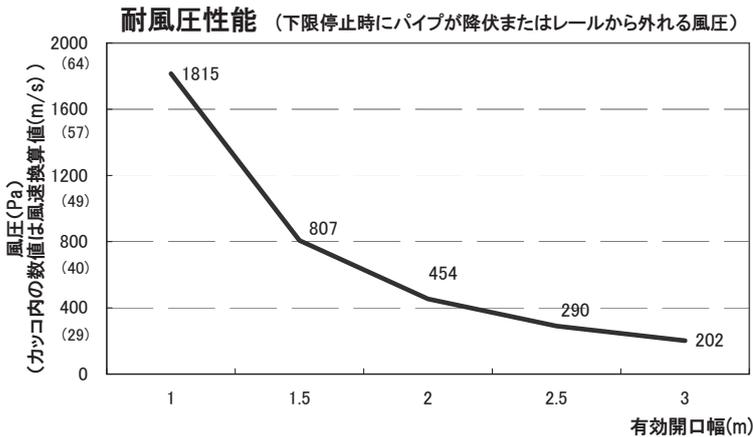
項目		仕様	
本体	有効開口幅	最小幅:W1000~最大幅:W3000mm	
		有効開口高	最小高:H1000~最大高:H3000mm
	本体ボックス	標準仕様	カラー鋼板(エリオ色) t=0.8mm
		ステンレス仕様	ステンレス鋼板 t=0.8mm
	レール L/R	標準仕様	カラー鋼板(エリオ色) t=1.6mm
		ステンレス仕様	ステンレス鋼板 t=1.5mm
	巻き取りドラム	アルミ合金 φ149	
側板カバー	カラー鋼板(エリオ色) t=0.8mm		
駆動部	駆動力伝達方式	インボリュートスプライン方式	
	開閉機	ACモータ(エンコーダー内蔵) (出力400W)	
	ホイール	鋳鉄品	
	開閉機の取付け方向	本体正面向かって右側	
	シート上昇速度※1	1.4m/s	
	シート下降速度※1	1.0m/s	
制御盤	商用入力電流	単相AC200V±10%(50Hz/60Hz)	
	定格電流	6A以下	
	待機電力	15W以下 ※標準装備の場合	
	制御用DC電源 (スイッチング電源)	DC24V、容量50VA	
	モータ制御方式	スロースタート、スローストップ制御	
	光電管センサ	光電管センサ(投受光型)	
	上下限設定制御方式	エンコーダー+ティーチング制御	
	操作スイッチ	上昇/下降/停止/手動・自動/設定/情報	
シート部	パイプ	シート	ポリエステル系入りビニールシート 色:クリア又はオレンジ(t=0.75)
		パイプ材質	シートシャッター専用高張力パイプ
		中間パイプ	φ25.4×t1.6mm
		下段パイプ	φ38.1×t1.2mm+ウエイト
許容動作頻度		2回/分 以内	
周囲温度		本体-10~40℃、制御盤5~40℃	
周囲湿度		20~85%。凍結・結露なき事	
環境条件		有害ガス、粉塵、結露・凍結なき事。腐食性雰囲気での使用不可。	

※1 上昇・下降速度は開口寸法、使用環境等により一部異なる場合があります。

スモージー耐風圧性能

※風向きについて、本機正面に対し、垂直方向で一定の風速で風が当たった場合を想定。

※耐風圧性能は計算式による算出であり、使用条件、使用環境により異なりますので、目安としてご覧ください。

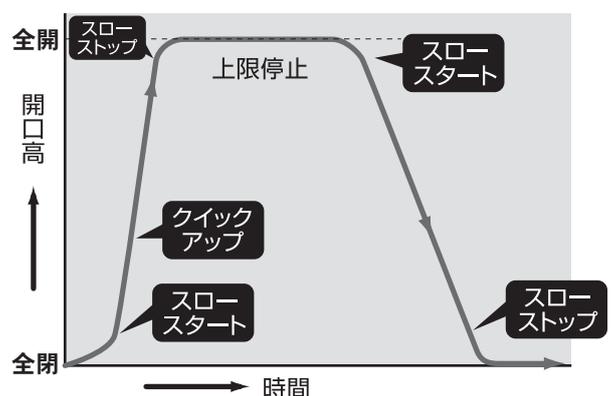


動作について

スモージー独自のモータは、上昇時にはすばやいクイック・アップ、下降時には設定したスピードでダウンし、閉まる間際にはゆっくりスローストップをします。すばやい開閉と静かな運転音で、作業性を大きく向上させます。

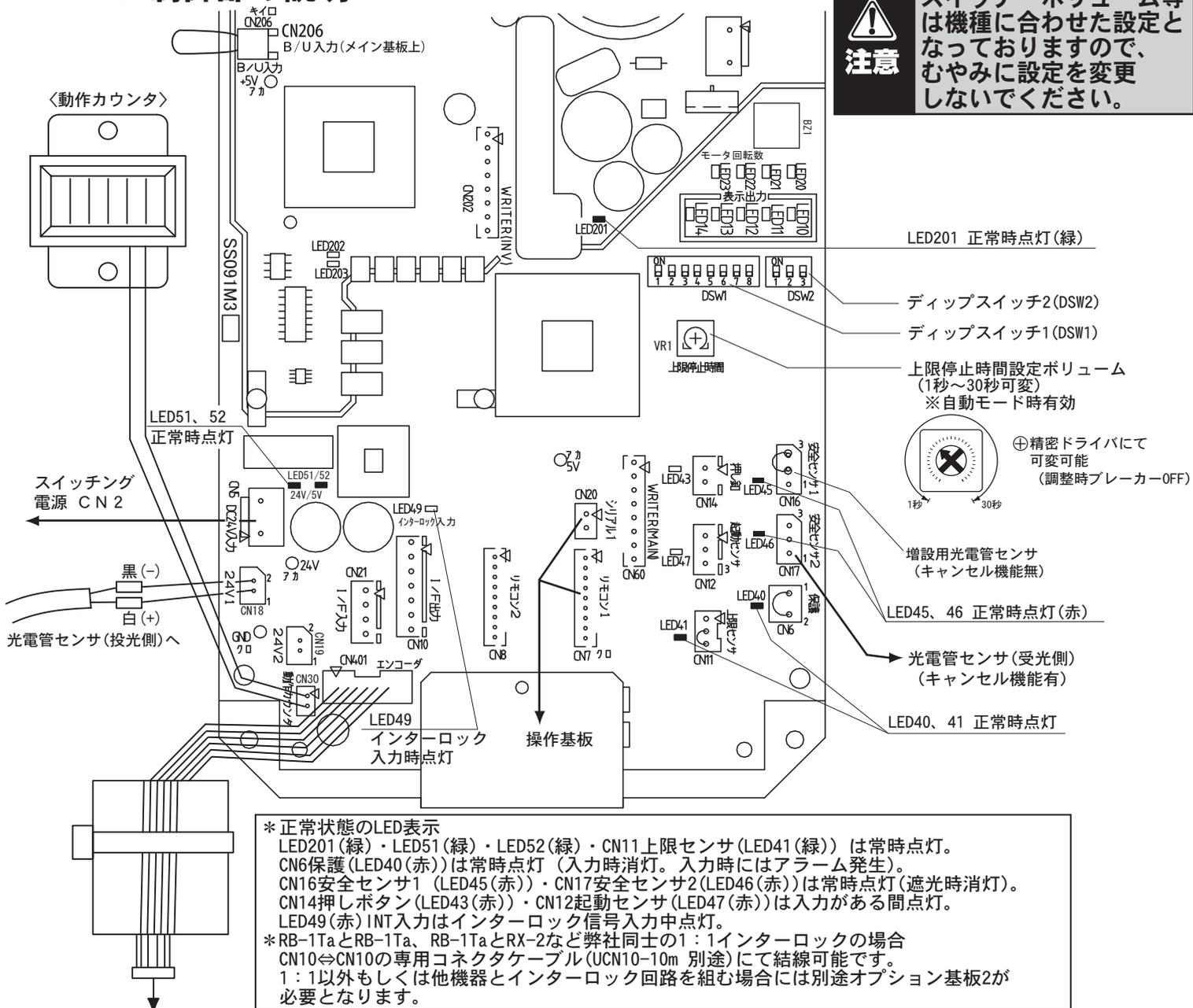
下降中に光電管センサを遮った場合は停止後上昇します。

●開閉スピード・イメージ



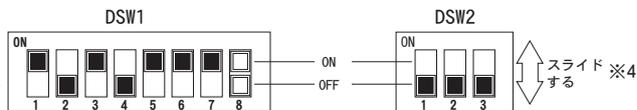
1-3 制御部の説明

注意 スイッチ・ボリューム等は機種に合わせた設定となっておりますので、むやみに設定を変更しないでください。



●ディップスイッチ割付表

メイン基板内ディップスイッチ



DSW1	機能	OFF	ON
1-1	電源投入時の設定モード ※1	電源投入時、常に設定モードとなります	電源投入時、通常モードとなります ☆
1-2	電源投入時の立上げ切替	電源投入時、手動モードで立上げ	電源を落とす前のモード(自動/手動モード)で立上げ ☆
1-3	上昇速度切替	標準速度設定	高速設定 ☆
1-4	下降速度切替	標準速度設定	高速設定 ☆
1-5	機種設定(RB-1, RB-1Ta設定)	ON設定 (操作しないで下さい)	☆
1-6		ON設定 (操作しないで下さい)	☆
1-7	外部信号a接点(N.0タイプ)等の入力信号使用時 ※2	外部信号未使用時	外部信号により上昇入力・停止入力・下降入力を使用する時 ☆
1-8	モータ回転方向切替	右モータ仕様	左モータ仕様

DSW2	機能	OFF	ON
2-1	インターロック入力受付モード切替	自動モードの時のみ受付	自動/手動モード共に受付 ☆
2-2	非常停止機能切替	非常停止信号入力後、即停止し、アラーム出力	非常停止信号入力後、上限位置まで移行後停止し、アラーム出力 ☆
2-3	3点押しボタン使用時停止ボタン論理切替 ※2、※3	通常設定(オプション3点押しボタン未使用時)または3点押しボタンの停止ボタンがN.0(a接点)の時	3点押しボタンの停止ボタンがN.C(b接点)の時 ☆

※1 DSW1-1を切替え初期設定・再設定を行った場合は必ずONに設定してください。

※2 3点押しボタン、外部信号を使用する場合、オプション基板2が必要となります。

※3 3点押しボタンを使用しない場合は必ずOFFに設定してください。

※4 ディップスイッチは電源を落としてから操作してください。

☆印は出荷時設定。無印(DSW1-8)は仕様によって異なります。

2 取扱について

2-1 ご使用方法

・ご使用前の確認

①電源の確認

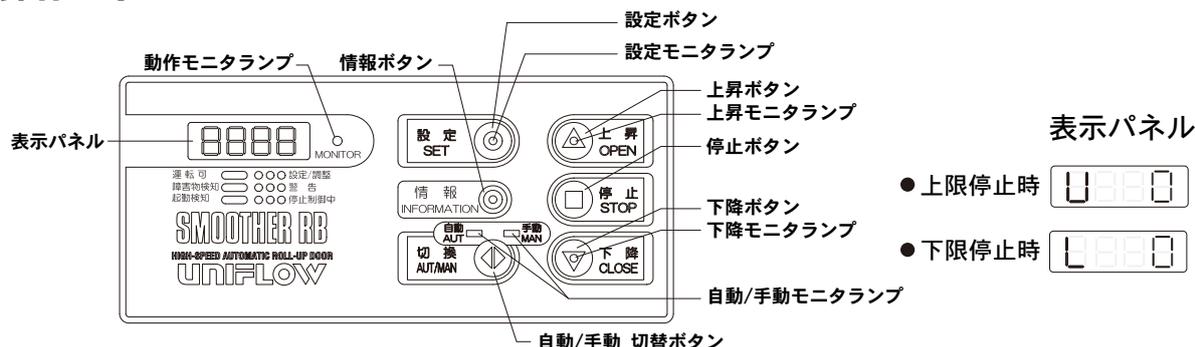
ブレーカがONになっていることを確認してください。

②動作モードの確認

設定モニタランプが消灯していることを確認してください。

自動モニタランプまたは手動モニタランプが点灯していることを確認してください。

・操作パネル



- 上昇ボタン：シートが上昇します。
- 停止ボタン：動作中のシートが停止します。(自動モード運転中に押すと手動モードに切替わります。)
- 下降ボタン：シートが下降します。
- 自動/手動 切替ボタン：自動モードと手動モードが切替わります。
- 自動/手動モニタランプ：モード状況を表示します。自動モードの時には『自動』、手動モードの時には『手動』ランプが点灯します。
 - ・自動モード：シートが上昇し、上限到達後、一定時間(任意設定)後に下降します。自動モードでは下降ボタンは無効です。
 - ・手動モード：上昇、停止、下降を任意に行います。
- 設定ボタン：通常動作では使用しません。手動モードかつシート停止状態の時に長押し(5秒以上)することで設定モードになります。
- 設定モニタランプ：設定モードの時にランプが点灯します。
- 情報ボタン：通常動作では使用しません。シート停止状態の時に押すとサービスモードになります。(各種情報読み取りモード)
- 表示パネル：動作状態、保護表示(E-OO)等を数値で表示します。
- 動作モニタランプ：現在の動作状況を表示します。

動作モニタランプ		動作状況
緑	点灯	正常運転可能、待機中
	点滅	設定モード中
赤	点灯	光電管センサ検知中
	点滅	保護制御中
橙	点灯	起動信号入力中(起動センサ、押し釦、CN21上昇入力等)
	点滅	動作制限中(CN10ロック I N入力、CN21停止入力等)

・オプション(1点押しボタン/ヒモスイッチ/起動センサ)を使用した場合の動作について

手動式	<p>制御盤の切換ボタンを手動にし、制御盤操作パネルならびに1点押しボタンを使用します。</p> <p>①1点押しボタンを押し、開口指示を出します。</p> <p>②シートが全開になります。</p> <p>③通過後、制御盤操作パネルの下降ボタンを押し、閉鎖指示を出します。</p> <p>④シートが全閉になります。</p> <p>※1点押しボタンの代わりに、ヒモスイッチでも同じ動きになります。</p>	
自動式	<p>制御盤の切換ボタンを自動にし、起動センサを使用します。</p> <p>①起動センサが反応し、開口指示が出ます。</p> <p>②シートが全開になります。</p> <p>③設定時間後、シートが自動で下降します。</p> <p>④全閉になります。</p>	
半自動式	<p>切換ボタンを自動にし、ヒモスイッチを使用します。</p> <p>①ヒモスイッチを引き、開口指示を出します。</p> <p>②シートが全開になります。</p> <p>③設定時間後、シートが自動で下降します。</p> <p>④全閉になります。</p> <p>※ヒモスイッチの代わりに、1点押しボタンでも同じ動きになります。</p>	

動作一覧表

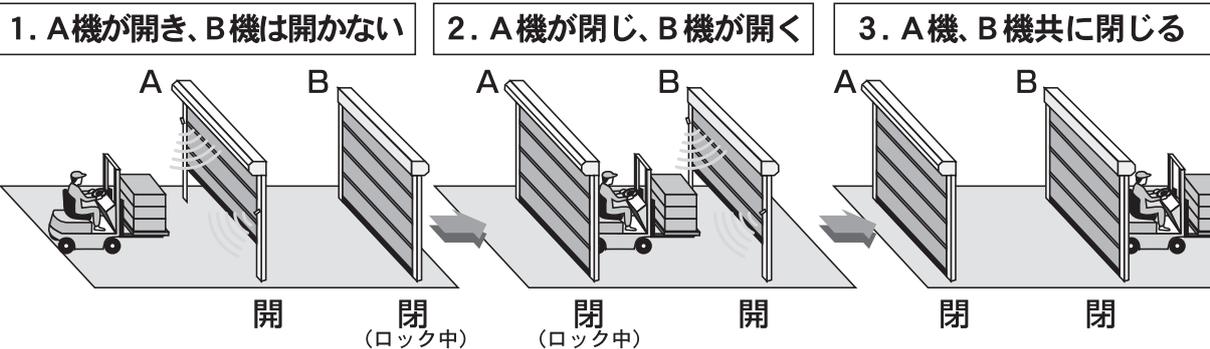
オプション品	モード	下限停止中	下降中	停止中	上昇中	上限停止中
1点押しボタン/ ヒモスイッチ	手動	上昇	停止	上昇	停止	下降
	自動	上昇	停止後上昇	上昇	—	時間延長
起動センサ	手動	—	—	—	—	—
	自動	上昇	停止後上昇	上昇	—	時間延長

※表の見方：例えば、「手動モード」で「下限停止中」に1点押しボタンを押す(ヒモスイッチを引く)と、「上昇」します。

・インターロック (オプション) について

2台のスムーザーでインターロック制御

2台のスムーザーを設置して前室をつくり、片方が開いているときはもう一方が開かないインターロック運転が可能です。インターロック機能を使うことで気密性が高まるため、空調効率のよいクリーンな環境をつくれます。



2-2 長期休暇等で電源を切る場合

手動モードで全開させる。

- ①自動/手動 切替ボタンを押し、手動に切り替えます。
- ②次に操作パネルの上昇ボタンを押し、シートを全開させてください。

電源をOFF。 ※電源を切る場合、必ず制御盤内のブレーカをOFFにしてください。



注意

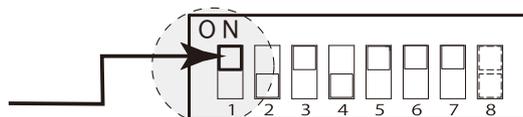
主電源を切る時には、シートシャッター制御盤内ブレーカOFF→主電源OFFの順を守ってください。

2-3 初期設定方法

各ボタンの確認

【電源を入れる前にD SW 1の確認】

メイン基板内のディップスイッチDSW1-1がONになっている事を確認します。

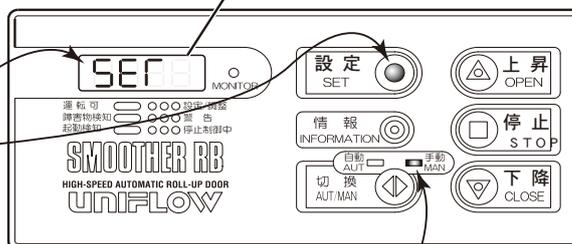


※出荷時 DSW 1-1はON

設定モードON

制御盤内のブレーカをONにします。
次に制御盤上の 設定ボタンを5秒以上長押しして下さい。
制御盤上の表示を確認して下さい。(2ヶ所)

表示パネル



①: 制御盤上の表示パネルが、SET表示

②: 制御盤上の設定ランプが、点灯

※SET表示の時はシートフリー動作可能
SET表示状態では上昇ボタン/下降ボタンを押している間シートが動きます。

※設定ボタンを長押ししても表示パネルがSET表示に切替らない場合、自動モードになっている可能性があります。切換ボタンを押して手動モードランプの点灯を確認し、再度設定ボタンを5秒以上長押しして下さい。

上限位置の設定



停止ボタンを押すと表示パネルがSET→SET 1に切替ります。→

表示パネル



SET 1 : 上限位置の設定

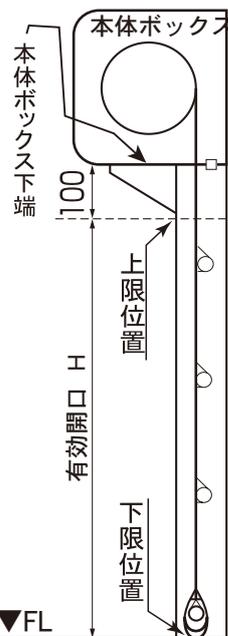
下降ボタンを押してシートを本体ボックス下端から200mm程下げて下さい。

次に上昇ボタンを少しずつ押しながら本体ボックス下端から100mm程下げた位置にて停止させて下さい。ボタンを離れた時に上限点を記憶します。

(上限位置の決定: 1秒間ブザー音がします)

※上限位置を再調整する場合には、下降ボタンを押してシートを本体ボックス下端より200mm程まで下げてから(ボタンを離せば停止します)、再度上記と同じ手順にて上限位置を設定して下さい。

※上限位置は本体ボックス下端から約100mm下りの位置にて合わせて下さい。



下限位置の設定



停止ボタンを押すと表示パネルがSET 1→SET 2に切替ります。→

表示パネル



SET 2 : 下限位置の設定

下降ボタンを押してシートを下降させてFLに達した時点で停止させて下さい。

※下降ボタンを離れた時に停止し下限点を記憶します。

(下限位置の決定: 1秒間ブザー音がします)

※下限位置を再調整する場合には、上昇ボタンを押してシートをFLより200mm程、上まで上げてから(ボタンを離せば停止します)、再度上記と同じ手順にて下限位置を設定して下さい。

※SET 1/SET 2が完了しない条件では、通常モードへは移行しません。

設定の完了



設定ボタンを押すと設定ランプが消灯し、手動モードが点灯する事を確認して下さい。 ※表示パネルは L 0

表示パネル



手動モードにてシートを2~3回上昇・下降させて異常がない事を確認して下さい。

※上限・下限停止位置が希望する位置で停止しない場合は、再設定して下さい。

設定完了

※再度、設定する際には手動モードに切替えて、設定ボタンを長押し(5秒以上)にて、**設定モードON**になります。【SET表示】ディップスイッチ(DSW 1-1)を切替える操作は必要ありません。

※設定ボタンを誤って長押しし、設定モードに切替えてしまった場合には、制御盤内のブレーカスイッチを一旦OFFにし、10秒後に再度ONにするか、再度初期設定を行ってください。

※中間高さ設定が必要な場合、取扱説明書(P10)を御参照願います。

2-4 中間高さ設定方法

- ・ 中間高さ設定は、自動モード時のみ有効となります。
手動モード時では使用できません。



注意

初期設定を再設定した場合、中間高さ設定もリセットされますので、再度中間高さ設定を行ってください。

3 異常時の処置

3-1 確認事項と対処



・下記のような異常がありましたら、『対応方法』に従い対処してください。
 ・復旧しないまたは症状が再発する場合は、開閉操作をおやめになり、速やかに通電を遮断してください。 ※巻末の故障時の修理連絡先にご連絡願います。

※LEDやコネクタの位置は、P6をご覧ください。

※コネクタの抜き・差しは、必ずブレーカをOFFしてから行ってください。

異常の症状	表示		原因	対応方法
	制御盤の表示	制御盤内メイン基板表示灯		
シートが開いたまま 下降動作しない	 赤が点灯している ↓ 2分間継続 赤が点灯している 		光電管センサ取付のゆるみ、ガタツキ ※光電管センサを2分間以上検知すると、『E-04』表示になります(光軸ズレも含む)	取付をしっかりと固定してください。 光電管センサを正常状態(LED45, 46を点灯状態)にしてください。
			メイン基板のCN16またはCN17コネクタ抜け 光電管センサの光軸ズレ	コネクタの抜け・ゆるみを確認。コネクタを差し直してください。 光軸を調整してください。
	 赤が点灯している 	両方が点灯していないとシートは動作しません	光電管センサの配線異常	断線が無いか確認してください。断線の場合は、修理連絡先へご連絡願います。
			光電管センサが障害物を検知 光電管センサ本体のレンズ面の汚れ	障害物を取り除いてください。 部品の汚れを布等で取り除いてください。
自動モードにて、シートが下降動作しない	 橙が点灯している		起動センサが障害物を検知(P14参照)	障害物を取り除いてください。
			起動センサが静止物検知状態(P14参照)	起動センサの設定を変更してください。
何も無いのに、反転上昇を繰り返す	 赤が反転上昇時に点滅する 橙が反転上昇時に点滅する	下降動作中に消灯する 	下降時に光電管センサを検知 ※風等でシートのためセンサが検知しています	レール内蔵側光電管センサはCN17へ接続してください。(P6, 14参照)
			下降動作中に点灯する 	起動センサがシート動作を検知
シートが動作しない	 赤が点灯している 緑が点灯している	全て消灯	制御盤内のブレーカ(P4参照)がOFF	ブレーカをONにしてください。
			一次側電源が供給されていない	一次側電源を調査してください。
	 緑(正常)が点灯している 	メイン基板上のLED201【緑】、LED52【緑】点灯	操作基板CN1またはメイン基板CN7コネクタ抜け(P4, 6参照)	操作基板CN1またはメイン基板CN7の抜き・ゆるみを確認し、コネクタを差し直してください。
		メイン基板上のLED201【緑】、LED52【緑】点灯	操作基板のCN3コネクタ抜け(P4参照) ※上昇ボタン・下降ボタン・自動/手動ボタンなどを押ししても何も反応しない	操作基板のCN3コネクタの抜き・ゆるみを確認。コネクタを差し直してください。
		メイン基板上のLED40消灯	保護停止(非常停止ボタン作動) ※非常停止ボタンはオプションです	非常停止ボタンをリセットして、制御盤操作パネルの停止ボタン(P4参照)を押すと、保護表示は解除されます。
	メイン基板上のLED49が点灯	メイン基板のCN6ジャンパコネクタ抜け(P6参照)	CN6ジャンパコネクタの抜き・ゆるみを確認。コネクタを差し直してください。	
		インターロック(ロックイン)信号入力中	インターロック対応機器の動作を確認してください。(P8参照)	

異常の症状	表示		原因	対応方法
	制御盤の表示	制御盤内メイン基板表示灯		
シートが動作しない		〔保護制御動作〕 LED10 ○ LED11 ○ LED12 ● LED13 ○ LED14 ○ LED12が点滅している	過負荷運転 ※突風や強風時による一時的な負荷増加、シート・パイプ等の引っ掛かりによる過負荷 モータ線またはエンコーダ線の異常 ※モータ線またはエンコーダ線に断線・コネクタ抜け・ゆるみが発生している	①保護要因を取り除く または、メイン基板のCN1コネクタ（モータ線）とCN401コネクタ（エンコーダ線）の抜け・ゆるみを確認し、コネクタを差し直してください。 ②制御盤操作パネルの停止ボタン（P7参照）を押すと、保護表示は解除されます。 ※『E-05』が頻発する場合は、盤内ブレーカをOFFし、基板中央の緑色LEDの消灯後、再度ブレーカをONしてください。 解除不能または再発する場合は、使用を中止し、修理連絡先へご連絡願います。
		〔保護制御動作〕 LED10 ○ LED11 ○ LED12 ○ LED13 ○ LED14 ● LED14が点滅している	過電流検出保護 ※過負荷運転やDSW(機種設定)のミスマッチ、許容動作頻度以上の連続運転を行った場合	
自動モードにて途中停止する	—	—	中間高さ設定により途中停止、または初期設定が未完了	初期設定方法をご確認の上、再設定をお願いします。 (P9、10参照)
自動モードまたは手動モードにて、途中停止する (電気系統)	—	—	配線や基板不良等の可能性があります	修理または部品交換が必要です。 修理連絡先へご連絡願います。
			消耗品の劣化・破損	定期部品交換が必要です。 P16をご覧ください。
自動モードまたは手動モードにて、途中停止する (シートが下降しない等の機構系)	—	—	フォークリフトの追突等により、レールやパイプ等の変形・破損	修理または部品交換が必要です。 修理連絡先へご連絡願います。
			消耗品の劣化・破損	定期部品交換が必要です。 P16をご覧ください。
設定モニタランプが点滅する		—	点検回数に到達 (運転状況お知らせ) ① 1点滅パターン 過頻度運転かつ10万回動作経過時 ② 2点滅パターン 50万回動作経過時 ③ 3点滅パターン 100万回動作経過時	この症状が出ましたら、修理連絡先へご連絡願います。 ※点検お知らせのため、通常操作では表示は解除できません。 ※点検お知らせ表示中でも、通常通り使用可能です。

※次ページの保護表示一覧も併せてご覧ください。

3-2 保護表示一覧

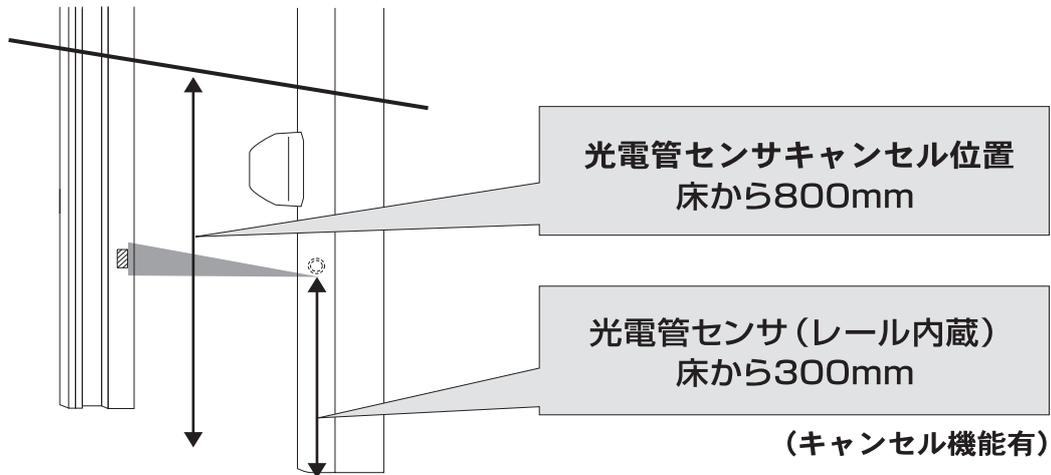
表示	保護内容および対応方法
E-01	保護停止：非常停止ボタン等の外部信号入力があった場合に表示します。 外部信号リセットし、制御盤操作パネルの停止ボタンを押すと表示が解除となります。 非常停止ボタンを使用していない場合は、メイン基板 CN6のジャンパーコネクタ(P6参照)の抜け・ゆるみがないか確認してください。
E-02	メイン基板CN11のジャンパーコネクタ抜け。(P6参照) コネクタに抜け・ゆるみがないか確認してください。再発する場合は、修理連絡先へご連絡願います。
E-03	オプションのバックアップ電源システムをお使いでない場合は、表示されることはありません。 バックアップモードに入った履歴があると、サービスモード (P7参照)でのみ表示されます。
E-04	光電管センサ2分間遮光：光電管センサ光軸上の障害物を取り除く等を行ってください。自動復帰します。 光軸ズレの場合は、光電管センサ光軸調整完了後、自動復帰します。
E-05	過電流検出保護：インバータ素子が過電流を検出した時に表示します。 ①シートに引っかかっている物がないか確認してください。 ②基板DSWの機種設定が正しく設定されているか確認してください。(P6参照) ③配線、モータ、基板等に損傷・劣化がないか確認してください。 ①②③にて対応できない場合は、修理または部品交換が必要です。修理連絡先へご連絡願います。
E-06	過頻度による保護停止：240回/時以上(アラーム中、上限で待機) 設置場所に応じたセンサの設定や上限停止時間の変更が必要です。制御盤の停止ボタンを押すと、表示が解除となります。
E-07	未設定(表示されることはありません。)
E-08	回生電圧異常検出保護：下降中、回生電圧の異常上昇を検出すると表示します。 回生抵抗(CN201)のコネクタ抜けまたは断線していないか確認してください。 断線している場合は、部品交換が必要です。修理連絡先へご連絡願います。
E-09	未設定(表示されることはありません。)
E-10	ブレーキ回路異常検出：シート停止時(上限, 下限, 中間停止)に、ブレーキ開放が継続された場合に表示します。 ブレーキリレーの消耗が考えられます。保護時にはシート落下防止のためシートは最低速にて下限位置まで下降します。 制御盤の停止ボタンを押すと、表示が解除となります。ブレーキリレーの交換が必要です。修理連絡先へご連絡願います。 ※基板上へ保護素子を内蔵しているため極性なしのリレーを使用しています。型式違いのリレーは使用しないでください。
E-11	停止時のパルス検出保護：ブレーキパッドの劣化が考えられます。 修理または部品交換が必要です。修理連絡先へご連絡願います。
E-12	未設定(表示されることはありません。)
E-13	CPU異常検出保護：基板故障により動作しません。 修理または部品交換が必要です。修理連絡先へご連絡願います。
E-14	エンコーダパルス保護：所定時間にエンコーダのパルス信号を検出できなかった場合に表示します。 ①モータ線・エンコーダ線の断線、メイン基板コネクタ(CN1, CN401)の抜け・ゆるみ等がないか確認してください。 ②強風時にも発生する場合があります。(下降時にシートが風圧等により等速下降ができない場合) ③シート、パイプ等が引っ掛かった時にも発生する場合があります。 ①②③にて対応できない場合は、修理または部品交換が必要です。修理連絡先へご連絡願います。
E-15	エンコーダ逆相検出保護： ①モータ線・エンコーダ線の断線、メイン基板コネクタ(CN1, CN401)の抜け・ゆるみ等がないか確認してください。 ②シート動作中に外的要因(リフト等の衝突)によっても発生します。 ①②にて対応できない場合は、修理または部品交換が必要です。修理連絡先へご連絡願います。
E-16	運転状況お知らせ表示①：過頻度動作100回カウント、かつ10万回動作到達時。 点検が必要です。修理連絡先へご連絡願います。(使用頻度が高い可能性有)
E-17	運転状況お知らせ表示②：50万回動作到達時。 点検が必要です。修理連絡先へご連絡願います。
E-18	運転状況お知らせ表示③：100万回動作到達時。 点検が必要です。修理連絡先へご連絡願います。
E-19	操作パネル通信エラー：操作パネルとメイン基板間の通信に異常がある場合に表示します。 メイン基板CN20コネクタに抜け・ゆるみ等がないか確認してください。動作機能に問題はありません。 原因を除去すると自動復帰します。
S8P2	情報モード通信エラー：操作パネルをCN8(白色)に接続し、情報モードに切替えた場合に表示します。 操作パネルの接続先をCN7(黒色)に変更し、情報モードに切り替えてください。動作機能に問題ははありません。
dPS6	機種設定不一致：機種設定が4型になっている場合に表示します。 表示中、操作パネルや押しボタン等全ての入力機器が無効となり動作できません。ディップスイッチの機種設定(1-5, 1-6)をご確認ください。(P6のディップスイッチ割付表を参照。)機種設定を修正後、電源再投入で復帰します。
E-b2	バックアップモード表示：オプションのバックアップ電源システムがつながっている時に表示されます。 E-b2：バックアップモード初期表示。その後、2回上限停止(シート開)で保護停止になります。
E-b1	E-b1：1回上限停止(シート開)で保護停止になります。
E-b0	E-b0：バックアップモード保護停止。シート開閉できません。 バックアップモードに入ると、保護履歴(サービスモード)に『E-03』と記録・表示されます。 ※バックアップ電源システムをお使いでないのに表示される場合は、メイン基板 CN206のジャンパーコネクタ(P6参照)の抜け・ゆるみがないか確認してください。

3-3 光電管センサキャンセルについて

風の影響等でシート下降中に下端シート部がレール内蔵側センサの光軸を遮り反転上昇を繰り返すことを防止する為、おおよそ床から800mm以下の位置では光電管センサがキャンセルされます。

(メイン基板CN16とCN17を入れ替えるとキャンセル機能を切換えられます。

CN16:キャンセル機能無、CN17:キャンセル機能有。P 6 参照。)

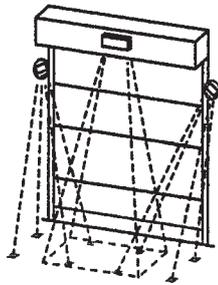


シート作動中の出入りはしないでください。

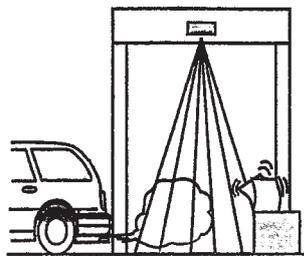
○シートに挟まれたり、頭などにぶつかり怪我の原因となりますのでご注意ください。

3-4 起動センサの注意

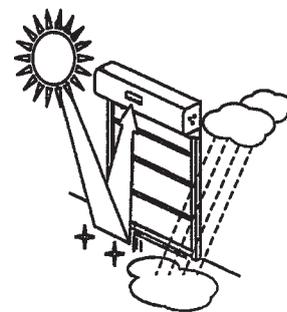
・起動用センサについて



① 検知エリアの干渉



②③ 蒸気や煙・風で揺れる物



④⑤ 太陽光・急な大雨等

- ①検知エリアが重なる場合、相互干渉により誤動作する場合があります。エリアが重ならないよう調整してください。
- ②風で揺れ動く物(植木や紙・ダンボール等)を検知し誤動作する場合があります。検知エリア及びその付近に物を置かないでください。
- ③蒸気・油煙等により床面が急激に変化した場合、誤動作する場合があります。
- ④急激な降雨・降雪等により床面が急激に変化した場合、誤動作する場合があります。
- ⑤床面の反射率が高い場合、太陽光等の影響により誤動作する場合があります。

- 誤動作の原因となるため、強い電波やノイズを発生する機器(蛍光灯・ネオン管や殺虫灯等を含む)を近くに置かないでください。
- センサの特性上、進入する物体のスピードや服の色、材質、及び床の色や材質により、人や物を検出する位置が異なる場合があります。
- 起動用センサの静止物体検知機能は、大型物体に比べて人体や小型の物体の場合は検知し続けることができない場合があります。

3-5 パイプがレールから外れた場合の処置



強風やシートへの衝突でレールよりパイプが外れた場合は、パイプ・シートをレールに入れ直すことで使用できます。



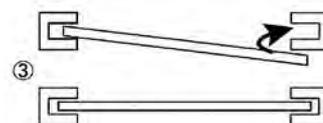
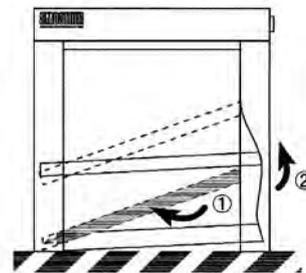
作業をする際には必ず電源（ブレーカ）をOFFにしてください。センサによりシャッターが動きだし、シャッターにはさまれたりして思わぬ事故になる場合があります。

・パイプ・シートの復帰方法

- ①パイプの片側をレールの奥まで入れます。
- ②パイプを①で入れた方向に押しながら、もう一方を上を持ち上げ、レールに入れます。
- ③すべてのパイプがきちんとレールに収まっているか確認します。
- ④電源をONにし、2~3回程度上昇/下降動作をさせてください。



修正後、スムーズに動作するか確認してください。異音やおかしい動作をする場合には、巻末の故障時の修理連絡先までご連絡ください。



自動モードまたは手動モードにて、上限・下限停止位置を必ず確認してください。停止位置が変わった場合は、上限・下限位置の設定(P9参照)を行ってください。

3-6 停電や故障時の開口確保方法



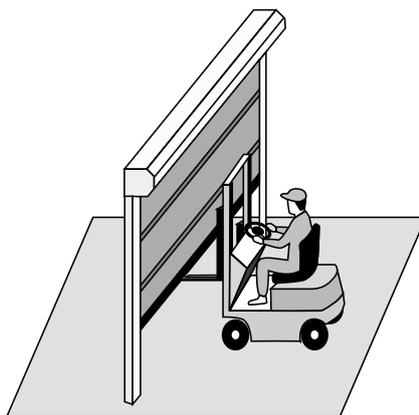
作業をする際には、必ず制御盤内のブレーカをOFFにしてください。作業途中に復旧してシャッターが動きだし、シャッターにはさまれたりして思わぬ事故になる場合があります。

<手で持ち上げてくぐる場合>

- 右または左端の下段パイプを持ち上げて出入りしてください。

<フォークリフト等で持ち上げてくぐる場合>

- 下段パイプ中央部をすくい上げ、シートをたくし上げて出入りしてください。



4 メンテナンス

4-1 お手入れ(掃除)方法



注意

お手入れには下記の事項を必ず守ってください。

- スモージーのお手入れを行うとき、高所作業の場合は足場の安全を確保してから行ってください。
- お手入れ中に他の人にスモージーを動かされると大変危険ですので、電源を切り必ず「清掃中」とわかるように表示してください。

- ・ボックスやレール表面のほこり・塩分等はさびの原因となりますので定期的中性洗剤で拭き取って清掃してください。
- ・シートの汚れがひどいときは中性洗剤で拭き取ってください。
- ・各センサの検知窓、反射板がホコリ等で汚れている場合は、中性洗剤で拭き取ってください。
- ※揮発性のものや油性洗剤でシートやセンサの検知窓、反射板を拭かないでください。劣化したり、光沢が失われることがあります。
- ※ご使用になる洗剤に書かれている注意書きをよく読み正しくお使いください。
- ※性能を著しく損なう恐れのある、本体の変形などは随時修理を必要とします。
〈本体、中間パイプ、下段パイプ、樹脂ガイド、その他〉

4-2 日常の点検



警告

常に下記の事項を点検・確認し、正しくお使いください。

- 動作に異常がある場合は速やかに電源を切り、巻末の故障時の修理連絡先にご連絡願います。

点検チェック内容

- ①シートシャッターを動かす前の確認
 - ・レールに物を立てかけていませんか。
 - ・シートシャッターが閉まっているときは、シートに物を立てかけていませんか。
 - ・シートに極端な破れはないか。
- ②シートシャッターを動かしているときの確認
 - ・異常音や異常振動がありませんか。
 - ・開閉動作中に停止ボタンを押したとき、すぐに停止しますか。
 - ・上限、下限を設定した位置で停止しますか。
 - ・各センサは正しく検知しますか。

4-3 定期点検



警告

適切な定期点検をしない場合は、次のような危険が発生する恐れがあります。

- 消耗品の摩耗・劣化などでシート等が落下し、人身事故になる恐れがあります。
- 故障の場合は修理費が増大し修理期間が長引く恐れがあります。

定期点検契約のおすすめ

- ・スモージーを末永く、安全にお使いいただくためには、定期点検と定期部品交換が必要です。表面上は正常にみえても経年劣化等により機能が低下するものもあります。
- ・定期点検契約をむすんでいただくことにより点検と保守が行われ、動作状態のチェックと消耗部品の交換などが定期的に実施され、正常に働くよう入念に調整されます。

部品名	交換時期	評価基準
シート	目安3年 ※使用頻度・環境により異なります。	補修不能な破損 極端な汚れや透明度の低下
樹脂ガイド	目安3年 ※使用頻度・環境により異なります。	補修不能な破損 部分接触の極端な摩耗や亀裂、欠損
モータ	50万回の開閉動作or5年間の動作使用 ※使用頻度・環境により異なります。	停止位置のずれ 停止時の異音
M・Lホイール	50万回の開閉動作or5年間の動作使用 ※使用頻度・環境により異なります。	停止位置のずれ 動作時の異音
制御盤	50万回の開閉動作or5年間の動作使用 ※使用頻度・環境により異なります。	左記同様
各センサ・スイッチ	50万回の開閉動作or5年間の動作使用 ※使用頻度・環境により異なります。	検知不良
ブレーキ用リレー	50万回の開閉動作or5年間の動作使用 ※使用頻度・環境により異なります。	接点板やケース内部の異常変色

※各部品の位置は、P 4 をご覧ください。

メモ

A series of horizontal dashed lines for writing notes.

メモ

A series of horizontal dashed lines for writing notes.

5 製品保証について

[無償保証期間]

1. 製品引渡し後1年間又は10万回とし、先に到達した方とします。
2. 無償保証期間中又は後で点検・修理した場合でも、保証期間は延長されません。修理交換した部品についても同様です。

[無償保証範囲]

1. 標準仕様書、施工説明書及び取扱説明書に基づく正常な使用状態で、無償保証期間中に生じた故障、不具合は無償保証とします。
但し、遠隔地や離島への出張修理の場合は、交通に要する実費を頂く場合もあります。
2. 無償保証の範囲外であっても、設計上や製造上、施工上、その他明らかに当社の責任により生じた不具合及び重大事例については無償保証扱いとします。
3. 無償保証期間中に発生した不具合については、不具合箇所の交換の範囲で無償とします。
4. 無償保証期間は、当社が製品を出荷し、製品引渡し（納入）した時点から起算されます。
但し、当社が施工を請負った物件については、施工完了日を起点とします。

[無償保証除外項目]

1. お客様の使用上の操作誤りによる故障、製品への損傷。
2. お客様の不適當な修理や改造による故障、製品への損傷。
3. 製品仕様を外れた特殊な環境下（塩害による腐食、大気中の砂塵・煤煙、各種金属粉・亜硫酸ガス・アンモニア・車の排気ガス等が付着して起きる腐食等）での使用による故障、製品への損傷。
4. 製品の許容仕様範囲を超える状況下（異常な電圧、温度・湿度、風圧、過大ノイズ等）、（過度の開閉頻度）での使用による故障、製品への損傷。
5. 天災地変（火災、地震、風水害、落雷、凍結等）による故障、製品への損傷。
6. 消耗部品の損傷
7. 製品の納入（販売）のみで、当社が施工を請負っていない場合で、施工上の問題と思われるもの。
8. 特注仕様製品で当社品質部門が品質保証しない製品の故障、製品への損傷。
9. 犬、猫、鳥、鼠、昆虫、ゴキブリ、蜘蛛等の小動物の害による故障、製品への損傷。
10. 予め使用環境及び使用方法に問題があると、当社より申し入れしたのにも拘らず、お客様の要請で出荷した製品及び施工をした製品の故障、製品への損傷。
11. 製品引渡し後の、輸送・移動・落下・移設等による故障、製品への損傷。

[生産中止後の有償修理期間]

1. 製品の生産中止後10年間は、有償修理工事及び修理用部品の受注受付けは可能です。
10年間を超えますと受注受付けできない場合もあります。
生産中止の情報は、当社セールスとサービス等から報じさせていただきます。

[輸出製品に関する特例事項]

1. 海外輸出品については、当社と輸出販売店間で「取引基本契約書」を取交し、製品保証範囲を規定します。
「取引基本契約書」を取交していない製品については、製品保証は対象外とします。

6 故障時の修理連絡先

各商品修理に関するお問い合わせ

株式会社 ユニフロー エンジニアリング部

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-30-4 BR五反田

受付時間

平日 9:00～18:00

土曜日 9:00～17:00

日曜祝日は翌営業日に対応させていただきます。

東日本 ☎ 0120-504-226

西日本 ☎ 0120-590-226

株式会社 ユニフロー

本社:〒141-0031東京都品川区西五反田2-30-4 BR五反田
TEL.(03)5719-6700 FAX.(03)5719-6699
<https://www.uniflow.co.jp>